

同窓会 創立70周年

記念ホームカミングデイ開く

国内最古の 私立工業大 躍進ぶりに感慨



2017
12.15
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 佐藤研3人が経産大臣賞/ロボ相撲伊藤さん池田さん全国大会出場も…/阿尻さん優秀ポスター発表賞/タウンキャンパス来場70万人達成/日墨学長会議に小宮学長出席
- 3面 海外発表9人受賞/神保さんFIT奨励賞/デザイン院生4人が優秀賞/金田准教授に最優秀論文発表賞/佐野教授に流体工学部門賞
- 4面 FDフォーラム/SI-LABの2チーム発表/習志野市が講演会/AO・推薦入試終了
- 5面 タウンキャンパスで「こども大学」/禁煙セミナー開く/校友「鬼柳一宇さん」
- 6面 第68回津田沼祭

講演会場に集まった同窓生たち

千葉工業大学同窓会創立70周年を記念して、「大同窓会」と銘打った第7回ホームカミングデイが11月25日、津田沼キャンパスで開かれた。全国から参加した約400人の卒業生は、ツインタワー校舎に目を見張り、全国9位の入学生志願者数や世界に発信される研究成果など、母校の躍進ぶりを改めて実感。北海道で「世界最高」の牛乳を生産している浜中町農協の石橋榮紀代表理事長(昭和39年工業経営卒)の特別講演に耳を傾けた。



■会員8万4千人超す
会場の2号館大教室では、冒頭あいさつに立った坂本洋会長(昭和45年

土木卒)が、同窓会員数が8万4179人に達したことをまず報告。興亜工業大学から千葉工業大学に改称した翌年の昭和22年に巣立った76人の第1回卒業生が、戦後混乱期の中で日本復興の気概を込めて同窓会創立に力を注いだとして、次のように話した。

「母校は我が国唯一の私立の旧制工業単科大学として75年の歴史を有し、その躍進は眼を見張るものがあります。そんな母校を同窓会の仲間が陰に陽に支えて下さっているのを見ると心が熱くなります」

続いて瀬戸熊修理理事長は祝辞で、経済誌による日本の上場企業役員数の大学ランキングで、千葉工大は掲載780校中64位、私立では37位にランクされたことを紹介。

「これは同窓生が国内外の産業界で中心的な役割を果たしていることの証左だと思う」とした上で、「前任者の第1期卒業生・豊田耕作理事長は、自前の校

地・校舎を持たない大学ゆえの筆舌に尽くしがたい苦勞を味わわれ、その経験から『後輩には自分たちのような惨めな体験をさせてはならない』という強い信念の下、キャンパスの整備に全力を注がれました。その汗の結晶が今日の千葉工業大学の姿なのです」と功績を称えた。

また、小宮一仁学長は同窓会の創立100周年が間近に迫る2045年に、人工知能(AI)が人間の能力を超えると言われている「2045年問題」を取り上げて、「同窓会が誕生した70年前、日本には3万8000種類の職業があったが、今は1万5000種類。これは科学技術の進歩によるものだが、我々はきちんと営みを続けていく。また、統計データを基に計算すれば、今、千葉工大で学んでいる学生の中の550人以上が22世紀を見ることが出来ます。私たちは、そういう時代を力強く生きていく学生を育てていきま

す」と、未来への抱負を語った。
この日の参加者全員に11月1日に発行の『千葉工業大学75年のあゆみ』を2冊を参照し同窓会特製のトートバッグが贈呈された。

「浦島太郎のよう」
乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭



「千葉工業大学75年のあゆみ」発行
今年5月15日に75周年を迎えた本学の歴史を記した「千葉工業大学75年のあゆみ」写真集が11月1日付で発行された。

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭

「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭



「浦島太郎のよう」乾杯の鈴木さん
会場を3号館学生食堂に移した懇親会には、卒業生の三浦のぶひろ参院議員と上野和彦都議会議員も駆け付けた。一瀬英貴前会長(昭和42年機械卒)と並んで乾杯の音頭

佐藤研3人 経産大臣賞

電気自動車の未来の形を提案



④(前列左から)寒河江さん、浦崎さん、高橋さん
立っているのは佐藤教授 ⑤ゲル化したEV車

東京モーターショー開催中に、電気自動車(EV)の未来を問いかけ開かれた「国際学生EVデザインコンテスト2017」(電気自動車普及協会主催)11月4日、東京都江東区の東京ビッグサイト会議棟で開催された「国際学生EVデザイン専攻修士11年」の浦崎秀司さん(デザイン科学専攻修士11年)、寒河江厚史さん(デザイン科学専攻修士11年)、高橋敏樹さん(同)のチーム「SAL」が提案した「Gei(ゲイ)が、最優秀賞に次ぐ経済産業大臣賞を獲得した。

Geiはモングルの遊牧民家屋の意味。SALチームは「流動的な社会を遊牧民のように移動し、新たな環境やコミュニケーションを求める。遊牧民の精神とEVを融合した新たな社会」を提案した。少子高齢化社会では空き家が増加。一方で居室をシェアする若者も増えている。



軽金属学会第133回秋期大会11月4、5日、宇都宮市の宇都宮大陽

阿尻さん 優秀ポスター発表賞

OCC線材の特性を研究 軽金属学会で

そこで駆動要素を下にまとめた、上部空間を個人の部屋とし「ゲル」化したEVと、それに接続できるシェアハウスをデザインした。個人の趣味に合わせた空間づくりができ、そのまま移動できる。コミュニケーションを増やしたり、コミュニケーション形成に役買、空き家問題の解決にもつながる。夏前に募集し、世界各国の応募の中から23チームが1次審査を通過。9月の2次審査で10チームに絞られ、11月4日、最終審査結果が発表された。チームの3人は長い製作期間中、提案の方向性がずれないように話し合

東キャンパスで開催のポスターセッションで、阿尻優也さん(機械サイエンス専攻修士11年、本保元次郎研究室II写真)が「アルミニウムOCC線材の凝固組織に及ぼすTi添加量と鋳造温度の影響」を発表し、優秀ポスター発表賞を受賞した。加熱鋳造による連続鋳造「OCCプロセス」(世界的金属工学者・大野篤美本学名誉教授II今年4月逝去IIが開発)で得られる金属材料は、内部にムラなく表面も滑らかで耐久耐食、加工性に優れる。



東京スカイツリータウンキャンパス(東京都墨田区押上・東京スカイツリータウン8階)が開設から約5年半の11月27日、来場者数70万人を達成した。

来場70万人を達成

スカイツリータウンキャンパス

Tiを添加すると純アルミニウムの微細化機構が増えるか、解明を目指した。Ti添加量と、鋳造温度をそれぞれ変えながらOCC線材を鋳造、円断面のCT画像で等軸晶の増加具合や結晶方位の変化などを調べた。その結果、添加の影響で鋳壁からの結晶遊離と包晶反応が生じ、等軸晶が生成していると考えられる、などを明らかにした。阿尻さんは、過去のポスターセッションでうまくいかなかった経験があり、その反省をポスター作成に生かした。また、果、添加の影響で鋳壁からの結晶遊離と包晶反応が生じ、等軸晶が生成していると考えられる、などを明らかにした。阿尻さんは、過去のポスターセッションでうまくいかなかった経験があり、その反省をポスター作成に生かした。また、早口の癖を直し、分かりやすく相手に伝えることを第一としたという。「人前で発表は苦手でしたが、今回で自信がつきました。受賞は本保先生と先輩、共同実験した方々のおかげで、感謝を申し上げたいと思います」と語った。

ロボ相撲、全国大会出場も...

伊藤さん池田さんのマシン 初戦で敗退



伊藤さんと出場マシン「YAGI7」

第29回全日本ロボット相撲の関東大会は10月15日、神奈川県厚木市の東京工芸大厚木キャンパスで開かれ、全日本の部・自立型で本学から出場した伊藤崇浩さん(機械サイエンス学科3年)・補助役の池田瑛さん(未来ロボティクス学科2年)のマシン(シコ名「YAGI7」)が5位に入賞し、全国大会への出場権を獲得した。しかし12月17日、東京・両国の国技館で開かれた全国大会&

世界大会では初戦で敗退し、36位に終わった。伊藤さんらは未来ロボット技術研究センター(fuRO)で研究を手伝う学生チーム「reRO」のメンバー。ロボット相撲は、直径1.54cmの鉄板の土俵上で、相手を土俵外に押し出せば勝ちとなる競技。▽プログラミングされた戦術で動き、センサーデータを基にロボット自身で判断し戦う自立型▽操作を競うラジコン型――

伊藤さんは「大学でロボットの設計や加工を一つ一つ学び、部品一つ一つ丁寧に製作したマシンで結果を残せて、大変うれしく思います」と語った。全日本ロボット相撲大会の2部門がある。ロボットサイズは幅・奥行き20cm以内、重さ3kg以内と決まっているが、高さは自由。伊藤さんは、マシンの仕様の決定に苦労したという。勝負は、どの程度の速度や推力を出せばいいのか、どの部分で相手の力を受け止めるかで決まる。reRO内で、仲間とともに実験と理論検討を繰り返して、設計した。伊藤さんは「大学でロボットの設計や加工を一つ一つ学び、部品一つ一つ丁寧に製作したマシンで結果を残せて、大変うれしく思います」と語った。全日本ロボット相撲大会

日墨学長会議に出席

小宮学長 産学官連携話し合う

メキシコと大学間交流を進める第3回日墨学長会議は11月30日と12月1日、広島市のリーガロイホテルで開かれた。小宮学長は、産学官連携話し合う。学長会議は、産学官連携を量的に拡大していくために今後学長会議を継続していくなどの共同声明が拍手で採択された。同会議は平成23年、日本の学十会館で開かれてから3年おきに交互の国で開催。第4回はメキシコで開かれる。



会議のレセプションで鏡開きする(左から)サラ・ラドロン・デ・ゲヴァーラ・ベラルクス大学長、小宮学長、越智光夫広島大学長、ガルシア・ロペス・メキシコ国際開発協力大臣、カルロス・アルマダ駐日メキシコ大使

海外発表9人が受賞

金融学生ら 生産管理国際大会で

日本生産管理学会などが開く第3回生産管理国際大会（ICPM2017）は9月7～11日、タイ・バンコクのアサンブション大で開かれた。今回のテーマは「生産のデザイン思考とイノベーション」。日本から約100人が参加して研究発表し、本学からは9人が各賞を受賞した。

経営リスク科学科教授に貢献賞、編集委員を務めた久保裕史・プロジェクトマネジメント学科教授には感謝状が贈られた。金融・経営リスク科学科は、ICPMへの参加を、国際コースの行事として奨励している。森教授は「学部生でもポスター発表できます。海外での体験は貴重で、継続できる仕組みが必要だと思います」。参加学生たちは「国際会議での発表は、とても緊張しましたが、タイ学生との交流、工場見学などがあり、よい機会を与えていただいたと感謝しています」などと語っていた。受賞者は次の通り。

院生4人が優秀賞

日本デザイン学会秋季企画大会で発表

平成29年度日本デザイン学会秋季企画大会（10月13～15日、函館市地味まらびくろセンターほか）で、ポスター発表した本学の石井智崇さん、小田彩花さん、不動さん、西尾修明さん、小田智博さん（以上赤澤智津子研究室）、西尾修明さん（佐藤弘書研究室）もデザイン科学専攻修士1年11の4人が優秀賞に決定。このほど表彰状が届いた。大会では「共創・当事者デザイン」をテーマに、当事者と共にデザインすることの意味を話し合った。学生プロボシオンには全国から15校68人が参加し、20件が優秀賞に選ばれた。受賞4人の発表内容と感想は次の通り。



ICPM2017の参加者たち



（左から）不動さん、西尾さん、小田さん、石井さん

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

「船橋在宅医療ひまわりネットワーク」のロゴ制作

「デザイン未経験者を含めたワークショップによる、潜在的価値抽出デザインプロセスの計画・インプロジェクト」

立山町と本学で取り組んだ立山町の風呂敷デザインについて発表。町の良さを町民から引き出して形にしようとする立山町を体感②「伝えたい」ことを決める③図柄で表現する④プロセスを経て制作したことを

「町の認知度向上を図る、特産品のパッケージデザイン」富山県立山町ラ・フランスジュースパッケージの提案

立山町で風呂敷企画と同時に進めたジュースパッケージについて発表。①プロジェクト目的の明確化②現地で情報を集める③商品力を探る④「気づき」をアタラシく⑤コンセプト立案・模型制作を経て町長室でプレゼンした流れを説明。

「旅行みやげの贈り物における印象に関する研究」地域の違いとデザイン要素の関係

「自分なりの視点を軸に取り組んだ研究が評価されていただけ、大変うれしく思います。評価・分析で難しさを感じましたが、1つ1つの工程が自分の力になったのではないかと感じます」

神保さんFIIT奨励賞

深層学習で圧縮画像の雑音を無く新手法

情報処理学会・第16回情報科学技術フォーラム（FIIT2017）9月12～14日、東京・本郷の東京大で開催の一般講演で、神保さん（情報科学専攻修士1年、八島由幸研究室II写真）が「量子化幅適応型ディープラーニングを用いたH・265/H・265/HEVC符号化雑音除去」を発表し、

FIIT奨励賞を受賞した。画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を、国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

ている。神保さんらは、H・265/HEVCという手法で圧縮符号化した後の復号画像に含まれる雑音を、深層学習によって取り除く新手法を提案した。

従来、ある量子化幅で符号化した画像の雑音除去を行う場合、異なる量子化幅で設計した雑音除去用の畳み込みニューラルネットワーク（CNN）を用いると良好に雑音除去ができず、あらゆる量子化幅で設計したCNNを持つ必要があった。神保さんらは、単一の量子化幅で設計したCNN出力に、量子化幅と雑音量の相関性に基づく適切な補正を施すことで、異なる量子化幅で符号化された際に発生する雑音に対しても優れた雑音除去が可能であることを示した。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。



情報処理学会・第16回情報科学技術フォーラム（FIIT2017）9月12～14日、東京・本郷の東京大で開催の一般講演で、神保さん（情報科学専攻修士1年、八島由幸研究室II写真）が「量子化幅適応型ディープラーニングを用いたH・265/H・265/HEVC符号化雑音除去」を発表し、

FIIT奨励賞を受賞した。画像認識の性能を飛躍的に向上させたAI（人工知能）技術を、国際標準方式MPEG/JPEGなどで知られるデジタル画像の圧縮・伝送に取り入れる研究が注目され

ている。神保さんらは、H・265/HEVCという手法で圧縮符号化した後の復号画像に含まれる雑音を、深層学習によって取り除く新手法を提案した。

従来、ある量子化幅で符号化した画像の雑音除去を行う場合、異なる量子化幅で設計した雑音除去用の畳み込みニューラルネットワーク（CNN）を用いると良好に雑音除去ができず、あらゆる量子化幅で設計したCNNを持つ必要があった。神保さんらは、単一の量子化幅で設計したCNN出力に、量子化幅と雑音量の相関性に基づく適切な補正を施すことで、異なる量子化幅で符号化された際に発生する雑音に対しても優れた雑音除去が可能であることを示した。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

深層学習活用の研究は、研究室としても立ち上げの時期で、GPU（画像処理演算装置）など高速処理環境の整備や情報収集を一から始める苦労があったという。神保さんは「賞が頂けた大変うれしく思います。今回の発表で指摘していた点について分析し、研究をより深めていきたいです」と語っていた。

金田准教授に最優秀論文発表賞



日本水泳・水中運動学会の2017年度年次大会は10月21、22日、東京都北区の味の素ナショナルトレーニングセンター

と、隣接する国立スポーツ科学センターで開かれた。先進工学部（教育センター）体育教室の金田准教授II写真IIが、12年ロンドン五輪日本競泳陣の技術スタッフ・足立哲さんと2人で「段階的な水位減少による立ち上がり動作訓練の可能性」動作および筋活動によ

る検討」を口頭発表し、ヤマハ最優秀論文発表賞を受賞した。大学施設を利用し水中環境での運動II歩行や椅子立ち上がり、段差昇降などの動作と筋活動IIを調査、大会メインスポンサーのヤマハ発動機㈱名を冠した受賞となった。金田准教授はスポーツ

科学と工学・情報科学・社会システム科学との連携を模索。ヒトの動きを詳細に計測し、運動プログラムやモノ、システムの改良に役立てている。受賞に「千葉工大に赴任後、初の受賞で、大変うれしく思います。今後もありたいと思います」とコメントした。

佐野教授に流体工学部門賞

流体工学分野で優れた業績を挙げたとして日本機械学会流体工学部門は10月29日、本学の佐野正利・機械工学科教授II写真IIに流体工学部門賞を贈った。第9回日韓熱流

体工学会議（10月27～30日、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンター）で開催して表彰された。佐野教授は、流体や物体の熱移動を活性化させる技術の開発や、マイクロ熱交換器の性能向上、プラスチックを利用した熱と流れの制御などの研究で知られ、2013年、日本機械学会からフェローの称号を贈られた

同学会流体工学部門によると、特に、後向きスリップを有するチャネル乱流の制御、管路の熱伝達測定、境界層制御に関する研究で卓越した業績を挙げ、一方、技術者の育成に努め、学会でもワークショップを運営するなど多大な貢献をした。日本機械学会は会員数3万4千人を超す国内最大級の学会で、120年の歴史がある。22部門があり、流体工学部門は学会の最大部門。

佐野教授は「最大部門から賞をいただき光栄です。業績の多くは千葉工大着任後に行ったもので、ご支援、ご協力をいただいた教職員、院生・学部生に心から感謝します。機械工学・工業の発展に少しでも貢献できたと思います」とコメントを寄せた。



同学会流体工学部門によると、特に、後向きスリップを有するチャネル乱流の制御、管路の熱伝達測定、境界層制御に関する研究で卓越した業績を挙げ、一方、技術者の育成に努め、学会でもワークショップを運営するなど多大な貢献をした。日本機械学会は会員数3万4千人を超す国内最大級の学会で、120年の歴史がある。22部門があり、流体工学部門は学会の最大部門。

佐野教授は「最大部門から賞をいただき光栄です。業績の多くは千葉工大着任後に行ったもので、ご支援、ご協力をいただいた教職員、院生・学部生に心から感謝します。機械工学・工業の発展に少しでも貢献できたと思います」とコメントを寄せた。

佐野教授は「最大部門から賞をいただき光栄です。業績の多くは千葉工大着任後に行ったもので、ご支援、ご協力をいただいた教職員、院生・学部生に心から感謝します。機械工学・工業の発展に少しでも貢献できたと思います」とコメントを寄せた。

FDフォーラム 真剣質疑

▼ 研究発表5件を教育業績表彰

教職員が力を合わせて
 本学の教育力向上に取り
 組むFDフォーラム(FD
 D委員会主催)委員長・
 長尾徹デザイン科学科教
 授が11月27日、津田沼
 キャンパス2号館大教室
 で開かれ、昨年度を上回
 る約150人の参加者が
 真剣に質疑した。写真。

FD(Faculty Develop
 ment)授業改革の組織
 的取り組み)のフォーラ
 ムは今回が5回目。これ
 まだ2月に開いていたFD
 D講演会を併催し、第1
 部を講演会、第2部を教
 職員の教育に関する研究
 成果を発表するポスター
 セッションとした。

冒頭、小宮一仁学長に
 代わりあいさつした佐波
 孝彦副学長は、文科省が
 進める「高大接続改革」
 について「大学入試改革
 ばかりがクローズアップ
 されがちだが、これまで
 の高校教育改革の中で育
 ってきた生徒たちがいよ
 いよ大学に入ってくる。
 そこで大学は、自分たち
 が教えたことを教える
 という従前どおりのやり
 方を続けていっていいの
 か。我々の教育のあり方
 を根本的に変えなければ

ならない時期が差し迫っ
 ていることを理解願いま
 たい」と呼びかけた。
 講演は全国規模の大学
 入試動向分析などに長年
 携わってきた高坂栄一・
 (株)進研アド大学改革推進
 室長による「高大接続改
 革の現場から」。

高坂氏は「高大接続改
 革とは高校教育と大学教
 育、大学入試を三位一体
 で改革して、社会で必要
 な力を持つアクティブラ
 ーナー(主体的な学習者
)を育てるのが目的だ」
 として、「大学はそこか
 ら逆算した教育の場であ
 ってほしい」と、大学側
 の意識改革を訴えた。

これに対し会場からは
 「学生に主体性を持たせ
 るための有効なテーマと
 は? また、どうしても
 主体的に動けない学生に
 はどう対応すべきか」な
 ど、現場を預かる教員な
 らではの質問が出され活
 発なやりとりが続いた。
 2階1~4会議室で行

われたポスターセッション
 には教員16件、大学改
 革推進室1件、教務委員
 会1件の計18件の研究発
 表が展示され、それぞれ
 のポスターの前で教職員
 が熱い議論を交わしてい
 った。

これら研究発表のうち
 次の5件が「教育業績表
 彰」に決まり12月7日、
 表彰式が行われた。

▽新井浩志准教授(機
 械電子創成工学科) 機
 械電子創成基礎実験・実
 習におけるPBL教育
 ーピンポン玉トランス
 ポーターの作製
 ▽金田晃一准教授(教
 育センター) ジャグリ
 ングを通じたスキルレ
 ーニング(身体・ティ
 ーピング・文章化・プレゼ
 ンテーション)と教養テ
 ーマ科目・テーマC・課
 題探究セミナーに向けて
 長尾委員長の話 こと
 数年、高く評価されてい
 る本学の教育力向上に照
 らしても、FDの効果は
 十分に出てきており、こ
 の流れをしっかりと維持し
 ていくことが大切だと思
 う。

研究開発の成果発表

▼ 介護系S-I-LABの2チーム

デザイン科学、プロジ
 エクトマネジメント、未
 来ロボットと機械電
 子創成工学、建築の5学
 科の学生で構成する2つ
 の混成チームが、今年7
 月から取り組んできた介
 護系S-I-LABプロジ
 エクトの成果発表会が11
 月16日、津田沼キャン
 パス2号館で開かれた。

センター(FURU)の
 富山健研究員をコーディネ
 ーターとして、2チ
 ムに分かれ、8月の御宿
 研修センターでの合宿を
 含むミーティングと、特
 別養護老人ホームなど各
 種の高齢者介護施設の見
 学や聞き取り調査などを
 積み重ねて、チーム独自
 のテーマ構築に挑んでき
 た。

2チームが発表した成
 果は――。

■チームA「CORE」(ク
 ーラ)(リーダー・経塚
 彩乃さん) デザ科) 介
 護施設利用者の要望に適
 合し、自分らしい生活を
 送ることのできる施設探
 求と、施設側のベッドの
 空き時間短縮、施設職員
 の利用者探し業務の軽減
 を進めるマッチングサー
 ビスシステムの開発。

■チームB「Senior」
 (スマイラー)(リーダー
 ・北本彩乃さん) デザ
 科) 施設内での利用者
 のレクリエーション時間
 をより楽しくするロボッ
 トの開発。センサーとラ
 ロジエクター、パソコン
 機能を内蔵し、スクリー
 ンや壁などに
 投影した映像
 が、利用者の
 動きに反応し
 て自在に変
 化。さまざま
 なゲームなど
 ができる。

富山研究員の話 S
 I-LABプロジェクト
 の最大の特徴は「全てを
 学生が自分たちで決め
 て、自分たちで実行し、
 成果を生み出す」。言い
 換えれば「自分から動
 け」ということです。

「つむぐもの」は、ワ
 ーキングホリデーで福井
 にやってきた若い韓国人
 女性と、介護が必要にな
 った頑固な和紙職人の交
 流を通して、人が最期ま
 で自分らしく生きるには
 何が必要かを、見る人に
 訴えかける作品。主演は
 石倉三郎と手嶋コッピ。

「習志野発学生向け」
 をキャッチフレーズにし
 た講演会が11月11日、習
 志野キャンパス2号館大

学生よ 習志野に帰れ

▼ 市が本学で講演会開催

教室で開催された。
 「イノベーションで世
 界を変えよう」をテーマ
 に、ジャーナリストの田
 原総一郎氏、起業家志望
 者に人気のコンサルタン
 ト・山口周氏、「働き方
 のリデザイン」を掲げて
 活躍している石川貴志氏
 が熱弁を振るった。

この講演会は、習志野
 市の新たな魅力を創り出
 し、発信して「習志野ブ
 ランド」を確立しようと
 いうシティーセールスの
 一環。習志野市には本学
 の他に日大生産工学部と
 東邦大があるが、多くの
 学生が卒業すると他地域
 に転出してしまふ。

そんな若者たちに、も
 と習志野を好きになっ
 てもらい、たとえ転出し
 ても結婚や就職、転居な
 どを機に、もう一度習志
 野を思い出してもらえる
 存在になりたい――とい
 う市当局の願いを込めた
 企画だ。

会場には、メールなど
 で事前応募した本学の学
 生をはじめ、他地域の学
 生や中・高校生、一般
 市民など約250人が集
 まり、講師の話に熱心に
 耳を傾けていた。

30年度AO・推薦入試終了

平成30年度AO・推薦
 入学試験が、11月19日
 に行われた指定校制推薦入
 学試験を最後に、全日程
 を終了した。

9月から11月にかけて
 ▽AO創造入学試験▽公
 募制推薦入学試験▽専門
 高校推薦入学試験▽指定
 校制推薦入学試験▽帰国
 生徒推薦入学試験(指定
 校制)▽特別入学試験
 (外国人留学生・帰国生
 ・徒・社会人)――と、順

次行ってきた。志願者数
 の合計は1543人。
 また、編入学試験、指
 定校制(高等専門学校)編
 入学試験を11月18、19日
 に行い、今年は48人が志
 願した。



成果を発表するS-I-LABチーム



映画「つむぐもの」の討論会

発表会には
 介護施設や機
 器、介護士養
 成などに携わ
 っている専門
 家6人や、チ
 ムメンバー
 の学生が所属
 している学科
 ・研究室の教

「つむぐもの」は、ワ
 ーキングホリデーで福井
 にやってきた若い韓国人
 女性と、介護が必要にな
 った頑固な和紙職人の交
 流を通して、人が最期ま
 で自分らしく生きるには
 何が必要かを、見る人に
 訴えかける作品。主演は
 石倉三郎と手嶋コッピ。

「習志野発学生向け」
 をキャッチフレーズにし
 た講演会が11月11日、習
 志野キャンパス2号館大

教室で開催された。
 「イノベーションで世
 界を変えよう」をテーマ
 に、ジャーナリストの田
 原総一郎氏、起業家志望
 者に人気のコンサルタン
 ト・山口周氏、「働き方
 のリデザイン」を掲げて
 活躍している石川貴志氏
 が熱弁を振るった。

この講演会は、習志野
 市の新たな魅力を創り出
 し、発信して「習志野ブ
 ランド」を確立しようと
 いうシティーセールスの
 一環。習志野市には本学
 の他に日大生産工学部と
 東邦大があるが、多くの
 学生が卒業すると他地域
 に転出してしまふ。

そんな若者たちに、も
 と習志野を好きになっ
 てもらい、たとえ転出し
 ても結婚や就職、転居な
 どを機に、もう一度習志
 野を思い出してもらえる
 存在になりたい――とい
 う市当局の願いを込めた
 企画だ。

社会実装(Social
 Implementation)を見据
 えた高齢者介護のための
 サービスや製品、システ
 ムなどを、学科の垣根を
 越えて学生が主体的に創
 り出そうというこのプロ
 ジェクトに参加したのは
 デザ科、PM、未ロボの
 3年生各2人と、建築の
 2年生2人、機械電子創
 成の2年生3人の計11
 人。

未来ロボット技術研究

児童たちに「宇宙の話」

▼タウンキャンパスで「つらやすこも大学」

浦安市が主に市内の大
学と連携し、小学4、5
年生に専門の話をつらやすこも大学
の今年も開講した。

月11日、東京スカイツリ
ータウンキャンパスで、
和田豊・機械電子創成工
学科准教授が「宇宙と未
来技術の不思議」を子ど
もたちに講演した。

講演で和田准教授は、
千葉工大の惑星探査研究
センター(PERC)が
宇宙航空研究開発機構
(JAXA)やアメリカ
航空宇宙局(NASA)、
欧州宇宙機関(ESA)
など世界の主要組織と共
同プロジェクトを進めて

いることを分かりやすく
解説した。
小学生たちは、PERC
が国際宇宙ステーション
(ISS)に設置され
た超高度度ハイビジョン
カメラで流星を観測して
いる「メテオ計画」を進
めていること、また、は
やぶさくに搭載されてい
る科学観測装置の開発に
携わった、などの説明を
聞いて、宇宙の映像に見
入っていた。



①ロボットゾーンで災害対応車を見学 ②魔法のカードを不思議そうに手にとる子どもたち ③宇宙の話を聞く



2015年から敷地内
を全面禁煙にしている本
学は12月1日と6日のラ
ンチタイムを利用し、
「禁煙セミナー」を津田
沼校舎2号館、新習志野
校舎12号館の会議室で開
催し写真。就職先で受動
喫煙を体験し市民運動を
始めたという丸山恵梨子
さん(Smoke-Free World
代表)を講師に、両日合

わけて学生・職員約80人
が説明を聞いた。
丸山さんは、交通事故
死は年間約3900人だ
が、たばこが原因の死者
はケタ違いの14万300
0人、その内1万500
0人が受動喫煙、という
厚生労働省のデータを紹
介。ニコチンやタールが
身体に及ぼす影響や、普
及が加速している電子た

ばこの実際は……などを
約50分間話した。
たばこの害に明確な施
策を打てない日本に対し
「千葉工大の敷地内全面
禁煙は、グローバルスタ
ンダードを体現できいて
る」と褒めた後、就職内
定の条件に禁煙を含める
企業も出ている、と注意
を促した。

「禁煙セミナー」開く

▼市民運動の丸山さんが講演

活躍する 校友

株式会社アイオー精密会長
鬼柳 一宇さん (77歳)
(昭和37年、電気工学科卒)

「あと10年は頑張りたい」。
鋭い眼光、引き締まった口元
を突いたのは、こんな言葉で
ある。本学初の柔道世界チャン
プとして名を上げ、当ニュー
ースにも以前登場した猛者
だ。2017年春、新たな本
社屋(岩手県花巻市)竣工と
ともに社長の座を降り、会長
に。しかし「生産現場は完成
型にあらず。通過点です」と
きっぱり。改良の途を求めて
いまなお全国を歩く。8年ぶ
りに再訪し、老いを投げ飛ば
すがごとく熱き創業者魂を語
っていった。

本社現場を案内された。
工場見学中の地元の高校生と
バッタリ。毎年、中学生の見
学やインターンシップの受け
入れなどCSR活動(企業の
社会貢献)にも力を入れ、花
巻随一の従業員(490人)
を擁する会社として地域に寄
与している。

「量産品はコスト面で新興
国に奪われていく。」
「表面処理など最新鋭機器
の間を自由自在に流れる。」
「ネジ1個、1枚のワッシャ
1(座金)でも」をモットー
にした社内一貫生産体制が評
価され2016年度、中小企
業を顕彰する第50回「グッ
ドカンパニー大賞」グラン
プリに輝いた。

創業者魂 未だ熱く 柔道7段、精密部品にかける



「従業員がいかに働くかは経営者次第」と話す鬼柳さん

「いつまでも創業者の時代で
はないのだけ
れど、会社の
進む方向、従
業員がいかに
働くかは
経営者次第。
しっかり経営
方針を示さな
いと社員はつ
いてこない」
との信念は
固い。この
ところ電機、
製鉄、自動
車、化学メー
カーなどモノ

「量産品はコスト面で新興
国に奪われていく。」
「表面処理など最新鋭機器
の間を自由自在に流れる。」
「ネジ1個、1枚のワッシャ
1(座金)でも」をモットー
にした社内一貫生産体制が評
価され2016年度、中小企
業を顕彰する第50回「グッ
ドカンパニー大賞」グラン
プリに輝いた。

「手探りで進んできたら、
こんな形になった。やってき
たことの99%は失敗でした
ね。謙虚である。が、技術
は日進月歩。東京、大阪、名
古屋など業界の展示会やセミ
ナーをのぞき、最先端の情報
や技術に目をこらす。

「ここへ至る苦労が並大抵で
ないことは想像に難くない。
本学を卒業、しばらく続けた
サラリーマン生活に見切りを
つけ、アイオー精密を興して
約40年。この間、円高容認
の「プラザ合意」(1985
年)や国際金融危機「リーマ
ンショック」(2008年)
をへて国内の製造業は空洞
化。生産財づくりのお株も新
興国に奪われていく。」

「柔道7段。国際大会で8度
優勝している。外国へ出たそ
の足で取引先などへあいさつ
に回ることも。なにしろ自動
車、半導体、光学機器、工作
機械メーカーなど国内300
0社、国外では欧米など17万
社に及ぶ。」
現在、岩手県内3工場のほ
か、西日本の生産拠点として
神戸工場(神戸市)、それに
中国に二つ、ベトナムに一つ
工場を持つ。東日本大震災
(2011年3月11日)では
物流インフラがストップした

地域と大学をつないで

第68回津田沼祭

最多2万6千人が来場

秋の大学祭「第68回津田沼祭」が11月24〜26日（金土日）の3日間、津田沼キャンパスで繰り広げられた。今年のテーマは「Connect〜学生から地域を盛り上げよう」。地域の企業や市民、自治会とさらに強いつながることで津田沼祭を充実させたい、と願った。会期中は秋晴れに恵まれ、過去最多・延べ約2万6千人の来場者でにぎわった。

●初日 雨のなか準備した前日とは打って変わって秋晴れに。高嶋祥平

秋の大学祭「第68回津田沼祭」が11月24〜26日（金土日）の3日間、津田沼キャンパスで繰り広げられた。今年のテーマは「Connect〜学生から地域を盛り上げよう」。地域の企業や市民、自治会とさらに強いつながることで津田沼祭を充実させたい、と願った。会期中は秋晴れに恵まれ、過去最多・延べ約2万6千人の来場者でにぎわった。

●2日目 イベント広場は、ちびっこ手作り教室やストラックアウトでにぎわった。特設ステージでは、台気道部、よさこいソーラン風神部が華麗な演技、演舞を披露。アカペラサークルのハーモニーが響き、ストリートダンスサークルが迫力あるショーを繰り広げた。

●最終日 ロボットコンテストでは軽音楽部が演奏、風神部が演舞を見せた。

学生・市民待望のお笑いLIVEでは、津田沼祭でしか見られない豪華6組の芸人が登場。「ブルーツボンチ」「おぼたのお兄さん」……と続き「デニス」を最後に、会場を笑いで満たした。

親子でも乗れるミニ電車体験（鉄道倶楽部）は連日の行列。キャンパスに並ぶ模擬店は、お好み焼き、やきそば、うどん、豚汁、モツ煮など定番の、がっつり味わえるものに加え、お餅のワッフル、チョコスなどのスイーツ、大人向けアルコールを扱う店も。家族や年配者からも好評だった。

雑貨店は、工業大ならではの学んだ成果が表れたデザインが売り物。手に取ったり、買い求める姿が多く見られた。過去最大の来場者を迎えた。

高嶋実行委員長の話 テーマのとおり、人と人とのつながりで学生側から地域を盛りあげていくことを目指しました。商店街の方々による出店、地元テレビ局の広報、習志野市をテーマにしたイベントなど、さまざまな取り組みの結果、普段から関わりのある地域に貢献する大学祭になったと思います。

同窓会 師走に入り、各所でクリスマス飾り付けが見られるようになっていきます。千葉工大のキャンパスのイルミネーションにも明かりが灯り、津田沼駅前の大きなクリスマスツリーも、近隣にはすっかり馴染みのものとなっています。

四季雑感 アカデミアの道に進むことを決めた頃の目標が霞みかける中、なんとかなりそうな目標の一つに「修士全員で国際会議」がある。研究成果はもちろんのこ、開催日程や経済的な面もあり、なかなか実現は難しい。そんなある年、修士みんなで国際会議に行くと決めた。韓国から来ている卒研生が帰省するといので、ついて行くことにした。近くて遠くことになった。

山口 智 残念ながら論文投稿できなかった学生もいたが、私の目標を知ってか、私のチェアマンの時にホテルのプールで泳いでいたが……これで目標一つ達成。いや、遅いですが、「修士全員国際会議で研究発表」が目標であった。修士全員で海外へ行くことはありません。またある年、韓国から来ている卒研生が帰省するといので、ついて行くことにした。近くて遠くことになった。

菊池 耕生 研究室の皆さん、来年こそは！ 未来ロボティクス学科



開会式にチバニーも参加



よさこいソーラン風神部の演舞



ロボットコンテストでは応援もにぎやか



最終イベントのピンゴ大会には1000人が参加



迫力あるストリートダンス



たこ焼き。定番こそが、うまいのだ



空手部の形



開会を宣言する高嶋実行委員長

親子でも乗れるミニ電車体験（鉄道倶楽部）は連日の行列。キャンパスに並ぶ模擬店は、お好み焼き、やきそば、うどん、豚汁、モツ煮など定番の、がっつり味わえるものに加え、お餅のワッフル、チョコスなどのスイーツ、大人向けアルコールを扱う店も。家族や年配者からも好評だった。



同窓会

同窓会 師走に入り、各所でクリスマス飾り付けが見られるようになっていきます。千葉工大のキャンパスのイルミネーションにも明かりが灯り、津田沼駅前の大きなクリスマスツリーも、近隣にはすっかり馴染みのものとなっています。

同窓会 師走に入り、各所でクリスマス飾り付けが見られるようになっていきます。千葉工大のキャンパスのイルミネーションにも明かりが灯り、津田沼駅前の大きなクリスマスツリーも、近隣にはすっかり馴染みのものとなっています。

山口 智

編集だより 10月から12月は、公私共に怒涛のような日々。2017年を締めくくる冬のオープンキャンパスを終え、今年もあとという間だったとしみじみ。12月のオープンキャンパスでは、これまでキャンパスアドバイザーの代表としてチームをまと

め、企画・立案に協力してくれた学生達も代わりとなり、ほんの少し寂しい気分になる。息子や娘のような年齢の学生たちと、意見を交わし、一つのを作り上げていく過程で発生するいろいろな出来事は、私にとって何にも変えがたい貴重な時間だ。毎回、何千人もの高校生や保護者を迎える大イベントを、無事終了に導き、毎度無理難題を快く引き

受けてくれる学生たちには、言葉では言い尽くせないほど感謝の気持ちでいっぱい。 昨年はトリ(年)女のごとく、西さえ決まればいいななんて能天気な考えでいたが、実際のところ「鳥目か」と突っ込まれるような体たらく。来年は、自分しか出来ない何かでNo.1(ワン)を目指そうと思う。

大橋 慶子 入試広報課